

卒業六十年いちご会

卒業六十年。それぞれの家族や地域社会、教育機関、企業、団体から尊敬され、生きた証を身に着けた旧友たち、中には叙勲、褒章を受けた同期が五年ぶりの再会。北沢タウンホールスカイサロンには、その身に纏ったものを脱ぎ捨て、卒業のときのそれぞれの持ち味に帰った友情の盃が六十個並びました。

独特の優しい眼差しで同期の取りまとめに尽くしてくる西出君から、「同窓会会長を二回に渡って担った青柳（正規Ⅱ元文化庁長官）を労い、卒業六十年で集まろうや。でも忙しいから助けて」のメール。頼まれるのが大好きないちご会の8クラスの幹事がこれに呼応、俺にできるのは、パティ準備だけと手を挙げた筆者。でも直面したのは、七八歳、七九歳が一体何人が集まれるのだろうか？「会費を抑えて楽しく」を求めている最適会場を決めるにはこれが肝心。

早速、級友の参加動向を探る面倒な連絡を各幹事が引き受けてくれ、日に変わる申し込みとキャンセルの管

理を一手に引き受けてくれた小林征男君、「細かい心配は要らないよ、積立金がある」と示唆してくれた羽毛田実君。これで準備は軌道に乗りました。当日の大切な司会進行役は、はじめから筆者の動きを支えてくれた川合昭夫君と馬場悠男君、他の集まりなら来賓席という豪華な配役。この報告書作成もご助言をいただきました。

また「当日はなんでもするよ」と忙しいはずの窪田道夫君や船津重宏君など幹事たちが次々に申し出てくれました。集合写真はその作品を出展する実力者井上武夫君、スナップ写真は機会を逃さない献身的な大木繁男君、会場設営の先頭は頑強そうな和田勝君、会場での老々健康管理役は医師の谷村玲子さん、受付は安心感抜群の引間美登里さんと、会費を死守してくださった横山明子さんが引き受けてくれました。前回の司会コンビだった横山郁子さんの支えも感じました。結局ご都合が付かなく会えなかった本多武君や河東杉雄、晴世夫妻も励ましてくれました。なんと暖かい輪！準備役の胸には九月二九日の会合を待たず熱いものが。何十年ぶり、あるいは遠方からの参加者のスピーチは、熊本から参加の小





青柳前会長（左）
と池辺晋一郎さん



受付に並ぶ
元若人たち



西出紀久さん

林弘昌君、元局アナの神山喜久子さんや画家で元岐阜県立美術館館長の古川秀昭君など多彩でした。憶えきれないほど多い文化団体の代表を務める青柳正規君と、融通無碍、言葉遊びに長けた「詩がねえ作曲家」で、二週間前の「バスデーで交響曲第十一番を世に問うた池辺晋一郎君は、さすがに話し慣れていて、中身が濃く、笑わせてくれました。」

この会に参加できたみんなは、お互いの無事を確認し、じつに幸いなひとときを過ごすことができました。そして、何らかの理由でこの暖かい場に來られなかった友の気持ちを思う機会でもありました。最後には、川合君の発案で「今日の日はさようなら」を、♪いつまでも絶えることなくと、余韻を会場に残してお別れとなりました。

世界中の人々が、分断の圧力に押し流される危機のなか、同じときに同じところで学んだ「心のふるさと」の大切さを痛感した同期会でした。

（一五回 横田 堯）